



## わたし <sup>かいせつしゃ</sup> 私がプラネタリウム解説者になったいきさつ

私がプラネタリウムの仕事に就いたのは、新聞でギャラクシティの求人広告 <sup>きゅうじんこうこく</sup> を見つけたのがきっかけでした。それまではアニメの仕事をしていましたが、宇宙が好きというだけで飛び込んだ世界でした。今から28年前1994年2月、ギャラクシティ開館の40日前の事でした。

その時集まったメンバーは、私を含めて <sup>ふく</sup> プラネタリウムとは全く <sup>かか</sup> 関わりのない人たちでした。ギター教室の先生、空港の整備士 <sup>せいびし</sup>、音楽・映像のマニア <sup>えいぞう</sup>、IT関係 <sup>かんけい</sup> の仕事の経験者 <sup>けいけんしゃ</sup>。正直 <sup>しょうじき</sup>、最初から宇宙に興味があったのは私だけだったように <sup>さいしょ</sup> 思います。それでもお互いの特技を生かして、プラネタリウムを動かしてきました。当時契約社員だった私は、その期間が切れるまで、およそ8年間勤めました。 <sup>けいやくしゃいん</sup>

その後は介護事業所に勤めましたが、1年前、再びギャラクシティの求人広告を見つけて戻ってきました。20年ぶりのギャラクシティは、外見は変わっていませんでしたが、中の設備はすべて変わってしまいました。しかし、コンソール裏の機械室を訪れた時、そこには1枚の絵が残っていました。それは、28年前ギャラクシティでの研修を始めた時、投影機の取り扱いを自分なりにまとめて絵にしたものです。28年もの間ずっと残っていた絵を見た時、当時のメンバーに迎えられたような、そんな思いがしました。またここから私のプラネタリウム人生が始まります。



28年前、研修を始めた時に描いた投影機の取り扱い説明図

28年前、研修を始めた時、投影機の取り扱いを自分なりにまとめて絵にしたものです。28年もの間ずっと残っていた絵を見た時、当時のメンバーに迎えられたような、そんな思いがしました。またここから私のプラネタリウム人生が始まります。